



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

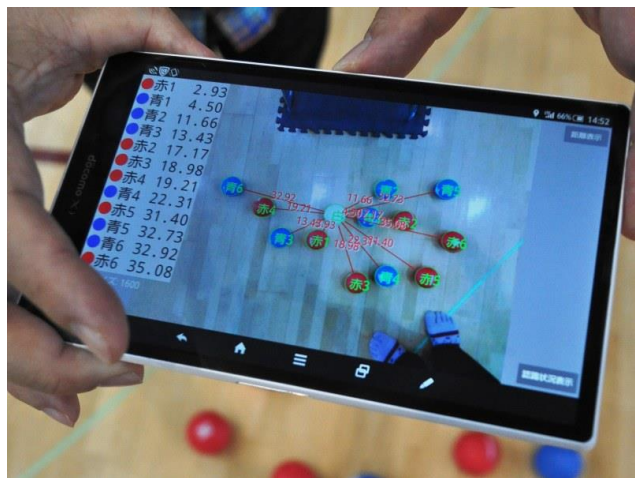
知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3389 号 2016.12.7 発行

ボッチャ これでも普及も 新アプリ開発

毎日新聞 2016年12月6日

シーエーシーが開発したアプリ「ボッチャメジャー（仮称）」。10分の1ミリ単位でジャックボールと他の球の位置を計測する＝金沢市で、飯山太郎撮影



ボール間の距離、精密に自動計測 協会、無料配布を検討

9月のリオデジャネイロ・パラリンピックでボッチャは日本がチームで銀メダルに輝き、一躍脚光を浴びた。いかに目標球に自分の球を近づけるかを争う競技で、これまでは手作業で測っていたボール間の距離を自動計測するアプリ「ボッチャメジャー（仮称）」が開発された。手軽に競技できるようになるため、2020年東京パラリンピックを控え、普及や強化に一役買うことが期待される。

ボッチャの試合では審判が目視やコンパスのような特有の定規を使って、目標球と他の球の距離を計測する。

知的障害者通所施設で生け花体験交流 明石の協会

神戸新聞 2016年12月7日



自由に生け花を楽しんだ木の根学園の利用者（手前）ら＝明石市大久保町大窪

明石市いけばな協会（兵庫県明石市）の会員約30人が6日、知的障害者通所施設「市立木の根学園」（同市大久保町大窪）を訪れ、利用者約120人と生け花を楽しんだ。

同協会の恒例行事。毎年この時期に訪問し、実際に花に触れてもらいながら利用者との交流を深めている。

同協会員はこの日、バラ、キク、グラジオラス、フェニックスなどを用意。同学園の利用者は1本ずつ手渡された花を自由に生けていった。また、利用者

一人一人に、持ち帰り用のカーネーションもプレゼントされた。

完成した6作品は施設内に飾るといい、同協会の西田広寿斉会長は「クリスマス、正月と1年で最も華やぐ季節を、生け花とともに楽しんで」と話していた。（片岡達美）

相模原の障害者施設殺傷 被害者の父「警察にも責任あったのでは」

毎日新聞 2016年12月7日

シンポジウムで発言する尾野剛志さん＝6日、山田泰蔵撮影

相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件で家族が被害に遭った尾野剛志さん（73）が6日、東京都内で開かれた障害者施策に関するシンポジウムに出席し、事件について「警察にも責任があったのではないかと指摘した。その上で、神奈川県は第三者検証委員会が警察の対応に問題がなかったとの報告書をまとめたことに対し、検証のやり直しを県に求める考えを示した。

尾野さんは同園の元家族会会長で、入所していた長男一矢さん（43）が重傷を負った。



美容師の夢 障害ある兄から 内閣府作文コンクール 中日新聞 2016年12月7日 富山中村さん（南砺福野高）優秀賞

内閣府による障害者との関わりをテーマにした作文コンクールで、南砺福野高三年の中村未来さん（18）が優秀賞を受賞した。中村さんは「私の夢」をテーマに、ダウン症の三つ年上の兄のおかげで美容師の夢が持てたとのエピソードを書いた。6日、県庁で表彰状授与式があり、県の蔵堀祐一厚生部長が中村さんに表彰状を手渡した。

受賞したのは、「心の輪を広げる体験作文」の内閣府特命担当大臣賞（高校生・一般部門）。最優秀賞に次ぐ賞で、中村さんを含めて全国で三人が選ばれた。



優秀賞に選ばれた中村未来さん（左）と母のゆかりさん＝県庁で

美容室に行った兄がいつも同じような髪形で帰ってくることに違和感を覚えた中村さん。調べると、介護の邪魔になるとの考えから本人の好みとは別に、短髪や丸刈りにされる障害者が多いことを知ったという。

作品の中で中村さんは、「本人のなりたい自分になってもらいたい。きれいになった時の喜びを味わってもらいたい」と美容師を志した経緯を紹介。「身近な場所で障がい者や家族が受け入れを断られている」「少しでも兄や障がい者の支えとなるようなさまざまな困難を見つけていく」と締めくくった。

授与式で中村さんは、蔵堀部長に「車いすの人も使えるシャワー台があるが、設置する美容院は少ない」とも説明していた。卒業後は美容室で働きながら、専門学校に通うという。（伊勢村優樹）

【JSC】パラ選手発掘事業、初の体力テストで29人通過 産経新聞 2016年12月6日

日本スポーツ振興センター（JSC）は6日、2020年以降のパラリンピック大会で活躍できる障害者の有望選手を発掘する事業で、11月に初めて実施した体力テストを29人（男子24人、女子5人）が通過したと発表した。

対象競技は陸上、水泳、ボッチャなどで、体力テストには40人が参加した。通過者は来年1月から始まる競技の専門的なトレーニングとテストを受け、合格すれば競技団体の合宿に参加するなど、育成プログラムを受けることができる。

天皇、皇后両陛下は6日、障害者の就労を支援する東京都葛飾福祉工場（葛飾区）を訪問された。9日までの障害者週間にあわせた視察で、両陛下はパソコンによる印刷物の入力や保存食の箱詰め作業などを見学。同工場は1972年に開設され、防災用品の製造、販売などに取り組んでいる。

パナソニック吉備など大臣表彰 厚労省、障害者の社会参加に貢献



山陽新聞 2016年12月6日
パナソニック吉備などをたたえた「障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」の式典

「第66回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」の式典が6日、厚労省で開かれ、岡山県内関係では岡山吉備高原車いすふれあいロードレース大会の発展に尽くしたパナソニック吉備（岡山県吉備中央町竹部）など2人1団体がたたえられた。

パナソニック吉備は今年29回目を迎えた同大会（組織委主催、山陽新聞社共催、岡山陸上競技協会主管）の事務局を担い、スポーツを通じて障害者の社会参加に貢献していることなどが評価された。西村博文社長（56）は「先輩方の取り組みに感謝するとともに、これを励みにさらに活動を推進したい」と話した。

式典では、全国71人1団体の対象者が紹介され、県身体障害者福祉連合会副会長の藤原智之さん（72）＝倉敷市＝が代表で謝辞。「今後も障害者福祉の向上のため、地域に根差した活動に尽力する」と述べた。

全日本難聴者・中途失聴者団体連合会副理事長で県難聴者協会事務局長の川場充さん（66）＝岡山市北区＝も表彰を受けた。

エフピコ、障害者雇用のコンサル強化 取引先向けノウハウ提供

日本経済新聞 2016年12月7日

食品トレー最大手のエフピコは、障害者雇用のコンサルタント業務を強化する。顧客企業向けサービスの一環で、障害者雇用のための特例子会社設立や雇用に携わる人事・管理責任者の育成などを支援する。コンサル担当も現在の2人から5人に増やす。障害者雇いで30年の実績を持つエフピコのノウハウを生かし、人材不足に悩む顧客企業の要望に応じる。

学び舎が植物工場に 大田原 旧川西中の廃校利用決まる

下野新聞 2016年12月7日

【大田原】市はこのほど、黒羽向町の旧川西中の利用候補者を南方の建設会社「マルホ建設」（星豪紀（ほしひでとし）社長）に決定した。同社は2017年7月から、同校校舎を植物工場や精米事業所、障害者就労支援施設として利用する計画。

貸与されるのは、1階の特別教室や配膳室、普通教室など計約700平方メートル。植物工場では発光ダイオード（LED）を用い、通年でイチゴを生産する。精米事業所では市内生産者から玄米を買い付け、精米し販売などを行う。

また就労継続支援事業A型事業所（定員20人）を運営する一般社団法人を設立する予定



で、同工場や同事業所での軽作業は地域の障害者を雇用して行う。

市総合政策部は「幅広い年代の雇用創出や障害者が活躍できる場の拡大を期待している」としている。

市は廃校となった同校と旧片田小、旧須佐木小の3校の利活用を図るため、利用者を募集。応募は同社1件のみだった。来年度以降の旧片田小と旧須佐木小の利用者募集については未定。

学童保育の定員超400人 利用増え整備追いつかず 久留米市【福岡県】

西日本新聞 2016年12月07日

久留米市は6日、放課後に保護者が家庭にいない小学生を受け入れる市内の学童保育所について、5月1日時点で定員3396人に対し3793人が利用する定員超過の状態にあることを明らかにした。児童福祉法の改正で、受け入れ対象が全学年に広がったが、半数の保育所で対応できていない。市議会本会議の一般質問で執行部が答弁した。

市によると、市内46小学校区のうち、浮島小を除く45校区に保育所があり、うち28校区で定員を超えている。市は、保育所の面積に応じて児童1人当たり1・65平方メートル以上の基準で定員を設定。定員超でも希望者は受け入れているが、御井校区と金丸校区では施設が足りず、視聴覚室など校舎の特別教室を使っている。

市は2010～15年度に定員790人分を増築したが「急いで整備しても利用者の増加に追いついていない」（市子ども政策課）状況だ。1～3年生のうち保育所を利用する割合は、12年度の36・1%から年々上昇して本年度は43・8%に上り、利用者は年約200人のペースで増えている。1人親家庭の増加などが背景にあるという。

また、児童福祉法改正に伴い、市は本年度から、1～3年生と障害のある4年生以上だった受け入れ対象を、障害の有無にかかわらず全学年に広げたが、対象拡大に対応したのは23校区にとどまっている。市は19年度を目標に、全校区で対応するよう、特別教室など学校施設の活用を進める。

病院の子供たちに本贈ろう サンタ・プロジェクト、11日まで 長野

産経新聞 2016年12月7日

来るクリスマスを病院や施設で過ごす子供たちに書店で自ら選んだ本を贈る「サンタ・プロジェクト・まつもと2016」が始まった。「あなたもサンタクロースになりませんか？」を合言葉に松本、安曇野両市と山形村の協力書店で受け付けている。プロジェクトは今年で5回目を迎え、過去最高となる270冊を目標に“サンタ”を募っている。11日まで。

協力店は松本市内のちいさいおうち書店、TSUTAYA北松本店、宮脇書店松本店、改造社書店松本駅前店、安曇野市の平安堂あづみ野店、山形村の興文堂アイシティ店の計6店。

参加者は各店で本を受け取る子供の「性別」や「年齢」「病院・施設名」が書かれたカードを1枚選び、その子供にプレゼントする絵本や児童書を1冊購入する。値段は800～1500円が目安。匿名でクリスマスカードを添付できる。

贈り先は松本市の信州大病院小児科病棟、城西病院小児科病棟、松本赤十字乳児院、県松本あさひ学園（情緒障害児施設）、松本児童園（児童養護施設）と安曇野市の県立こども病院の計6施設。

市民有志6人でつくる「サンタ・プロジェクト・まつもと」（西垣恭子代表）が主催し、これまでに約880冊を子供たちに贈った。問い合わせはNPO法人「ライフデザインセンター」（電）0263・46・2020。

ポケモンGO思わぬ効用？…自殺多発場所で抑止力に 福井・東尋坊…出現情報が人集める

読売新聞 2016年12月7日

スマートフォン向けゲーム「**ポケモンGO**」を楽しむ人が多数訪れ、自殺しようとする人が減った？ 「自殺の名所」と呼ばれてきた 東尋坊（福井県坂井市）が今秋、こんな話題で注目された。「死にたい」という心境に追いつめられた人は、どんな場所なら思いとどまれるのか。



「自殺の名所」と呼ばれてきた 東尋坊（福井県坂井市）が今秋、こんな話題で注目された。「死にたい」という心境に追いつめられた人は、どんな場所なら思いとどまれるのか。

ポケモンGOを楽しむ人たちが増えた東尋坊。「名所」の雰囲気にも変化が（11月初旬、福井県坂井市で）

11月上旬の週末、東尋坊は大勢の人でにぎわっていた。よく見ると、多くがスマホを手にしている。

「ここはポケモンがたくさん出る。レア（珍しい）ポケモンだけじゃなくて、普通のも多いです」

そう言ってスマホの画面を見せてくれた女子大学生（19）は、地元の坂井市内在住。観光ではなく、ポケモン目当てに訪れた。

自殺防止を目指すNPO法人「心に響く文集・編集局」は、東尋坊に軽食店兼相談所を設け、岩場をパトロールして悩みのありそうな人に声をかける活動をしている。ポケモンGOの日本での配信開始直後の8月、その活動で保護した人はゼロ。一方で、夜までポケモンGOをする人の姿が目立った。

このことがメディアで報じられた9月以降これまでに保護したのは計16人だが、うち9人は岩場での声かけではなく、自ら相談所を訪れるなどした人だった。

代表の 茂 幸雄さんは「自殺を考える人は人けのない場所を選ぶものだが、ポケモンGOをする人が岩場周辺にいるので思いとどまったのでは」と話す。

こうした現象について、自殺対策に取り組むNPO法人ライフリンク（東京都千代田区）代表の清水康之さんも「自殺しようとして遠くに行く人は、心が揺れ動いている場合が多い。イメージした雰囲気と違っていたら、自殺をためらうことはありうる」とみる。

ポケモンGO人気、いわゆる「名所」での一つの自殺予防策になったのだろうか。政府の自殺総合対策大綱でも「自殺の多発場所における安全確保の徹底」がうたわれ、自殺が多い場所に着目した予防策が重要視されている。

筑波大教授で精神科医の高橋 祥友 さんによると、自殺未遂者への聞き取りから、「名所」を選ぶ理由には、〈1〉人目につきにくい〈2〉確実に死ぬそう〈3〉美しい場所で最期を迎えたい〈4〉多くの人が亡くなっているため「一人じゃない」と思える——などが挙げられている。

予防策では、「防護柵を設けるなどの物理的バリア（障壁）と、人が声をかけるというような心理的バリアが有効。人目につきやすいということも、自殺の抑止につながる」と高橋さんは指摘する。自殺の多発場所に相談電話を設置したり、相談窓口を知らせる掲示板を設けたりすることも効果があるとされる。

日本は2011年まで年間の自殺者が3万人を超えていたが、対策強化で減少。15年は約2万4000人に減った。「自殺予防は手段を封じることが大事」と清水さん。「ながら運転」で交通事故が起きるなど問題も指摘されるポケモンGOだが、自殺予防のヒントを持っているのかもしれない。

ポケモンGO スマホの全地球測位システム（GPS）機能を使って利用者の位置情報を割り出し、画面に映る現在地の地図上で、現れたポケモンを捕まえるゲーム。今年7月22日に日本でも配信が始まった。利用者が外を移動しながらゲームを進めるのが斬新で、世界的にヒットした。（高梨ゆき子）

タイガーマスク現象、最初の「伊達直人」が素顔を公開へ 朝日新聞 2016年12月7日

全国各地の児童施設などに、ランドセルなどのプレゼントが届けられた「タイガーマスク現象」。漫画タイガーマスクの主人公と同じ「伊達直人」を名乗り、最初にランドセルの贈り物をした前橋市の男性（43）が7日、東京であるプロレスのイベントで素顔を見せ、支援を呼びかける。

イベントは、後楽園ホール（東京都文京区）での「リアルジャパンプロレス2016特別興行 初代タイガーマスク35周年記念大会」。このリングに上がり、数分のスピーチをする予定という。

タイガーマスク現象は、2010年のクリスマスの日、県中央児童相談所（前橋市）に「子どもたちのために使ってください」とのメッセージとともにランドセル計10個が伊達直人の名前で届けられていたのが話題となり、全国に広まった。

男性はその後、プロレスラーの「初代タイガーマスク」の佐山聡さんとともに、財団法人「初代タイガーマスク基金」を立ち上げた。それまでも長年、児童養護施設に入所する子どもたちや、その出所後の支援に携わってきており、「今行っている支援を広げ、行政にも協力を呼びかけたい」との思いでリングに立つことを決めたという。

退職や別れをきっかけに、高齢者のアルコール依存症 朝日新聞 2016年12月7日

アルコール依存症の特徴

- 酒量などを自分の意思でコントロールできない
- 数時間おき、または常に、絶え間なく飲むことが多い
- 飲酒への欲求を抑えられず、やめたくてもやめられない
- 飲酒を何よりも優先する
- 生活に支障をきたしている
- 飲まない手と手が震えるなどの「離脱症状」が出る
- 飲酒やその悪影響を認めようとしない



退職や身近な人の死別などをきっかけにアルコール依存症になる高齢者が増えている。年を取ると同じ飲酒量でも若いころより酔いやすく、アルコールとの付き合い方を変えていく必要があるようだ。

■昼夜続けて依存症に

「入院して初めて、自分が依存症だと認めることができた」。東京都内の男性（69）は振り返る。

60歳まで勤めた会社では、主に経理畑を歩み、仕事が終わると、毎晩のように同僚らと酒を飲んだ。延々と飲んで、電車の乗り遅れや乗り過ごしもよくあった。健康診断で肝機能障害を指摘されたが、気にしていなかった。

退職後は昼から飲み始めることが増えた。飲んでふらつき、転んで頭をけがしたことも。禁酒を試みたこともあったが、長続きしなかった。

2014年1月、自宅で血を吐き、救急車で搬送された。アルコール依存症と診断され、家族の希望で専門病院に入院した。

アルコール依存症は単なる大酒飲みとは異なり、「自分の意思で飲酒をコントロールできない」「生活に支障をきたす」などの特徴がある。

男性の場合、依存症との自覚はなく、診断に納得できなかったという。「いつでも酒をやめられる」。医師にはそう反論していた。

だが、入院中、患者が集まる「自助会」に参加し、色々な体験談を聞いて意識が変わった。「酒の害は死に至る。いまがやめどきだ」と思えるようになった。

退院後、自助グループの一つ、全日本断酒連盟（東京）に加盟する、自宅近くの断酒会に入会。飲酒の誘惑が多い夜は会合に参加し、断酒の目的を共にする仲間と過ごすようになった。会合で

高齢者の飲酒の注意点

高齢者では体に占める水分割合が低下



→ 同じ飲酒量でもアルコールの血中濃度が高くなる

退職、家族関係の変化、健康上の問題

→ アルコール依存症のきっかけになることも

家族もアルコールの問題を許容しがち

「年だから好きにさせてあげたい…」など

→ あきらめず、早めの受診を!

樋口進・久里浜医療センター院長への取材をもとに作製

誘惑が多い夜は会合に参加し、断酒の目的を共にする仲間と過ごすようになった。会合で

は一人ひとりが体験を語る。吐血後の手術のつらさや、家族にかけた迷惑を思い出し、毎回気持ちを新たにす。

昼間はマージャンや囲碁、スポーツクラブに出かけ、夜は断酒会に参加し、生活のリズムをつくることを心がける。家族も協力してくれる。妻は断酒会に出かける前に毎日午後4時半に夕食を準備してくれ、息子は親戚との宴席に付き添って酒を飲まないようにしてくれた。

体のだるさが抜けなかったが、最近はより健康的になったと感じる。「もう少しすれば、夜に一人でいても酒を飲みたいと思わないだろう」。少しずつ自信がついてきたという。

同連盟によると、60歳以上で断酒会に入会した人の割合は、5年前は19%だったが、今年4月時点では24%に増えた。依存症のリスクが広く知られるようになってきたことも一因だという。

■全国的に患者増

国立病院機構久里浜医療センター（神奈川）によると、同センターを受診したアルコール依存症の患者でみると、65歳以上の割合は、男性は2000年の13%から12年は24%に、女性でも6%から11%に増えた。

樋口進院長は「全国的に、高齢者の患者が増える傾向にある」と指摘する。退職後にぼっかりと時間が空き、昼間から酒を飲み始める人は珍しくないという。配偶者や友人との死別など「喪失感」を伴う出来事も多くなり、孤独な時間を埋めるように、酒量が増えることもある。

ただ、高齢になってから依存症になった人は、もともと社会生活を営んでいて規範意識が高い人が多く、若い人に比べて治療しやすいという。

治療では、入院して体からアルコールを抜き、心身に与える影響を学び、過去の問題行動を振り返る「心理社会的な治療」などを受ける。断酒は生涯続くことになるが、高齢者の場合、職場の飲み会などの機会も少なく、家族がいれば支援も受けやすい。

樋口さんは「高齢だから好きなようにさせてあげたいと、家族も許容しがちだが、早く治療させるほうが本人のためになるし、家族の負担も減る」と話す。家族が相談する場合、地域の精神保健福祉センターがいいという。

認知症を伴っている場合は治療の意義が伝わりにくいこともあるが、アルコール依存症を専門に治療する新生会病院（大阪）の和気浩三院長は「デイサービスの利用や、孫や家族と過ごす時間を増やすなど、これまで飲酒していた孤独な時間をいろんな人との関わりで埋めていくことで、断酒を続けられるケースも多く経験している」と話す。

飲酒の影響で一時的に認知機能が落ちることもあり、飲酒をやめれば回復する人もいるという。

■少量でも回る酔い

国民健康・栄養調査（14年）によると、飲酒習慣（週3日以上、1日1合以上）のある人は、60代で25%、70歳以上の13%。では、高齢者がアルコールとうまく付き合うには、どんなことに気を付ければいいのか。

一般的に成人男性なら日本酒で1日1合、ビールなら500ミリリットル（中瓶1本）が適量とされるが、高齢者は加齢の影響を考慮する必要がある。年を取ればアルコールの代謝能力が落ち、少量の飲酒でも酔いやすい。若いころに比べて体内に占める水分割合が下がり、同じ飲酒量でも血中のアルコール濃度は高くなる。

酔って転倒しやすくなり、大けがを招くこともある。国民生活基礎調査（13年）によれば、転倒や骨折は、介護が必要になった原因の12%を占める。

山王メディカルセンター（東京）内科部長の堀江義則・国際医療福祉大教授は「加齢とともに飲酒量を減らすことを心がけてほしい」と話す。酔うことを目的にせず、食事と一緒に、楽しく飲むことが大切だという。食事と一緒に飲酒のペースがゆっくりになり、アルコールの血中濃度の急上昇も抑えられる。飲酒量も少なくなりやすい。また、脱水を防ぐため、水分と一緒にとることを心がけてほしいという。

久里浜医療センターの樋口さんは、依存症を防ぐためにも「定年後に時間ができても、日中に飲む習慣はつけないで」と話す。高齢者は複数の薬を服用していることも多い。アルコールと薬の相互作用は複雑といい、服薬中の人は主治医に相談するのが安全だ。(熊井洋美、武田耕太)

76歳経営者を逮捕 82歳認知症女性に準強姦容疑 日刊スポーツ 2016年12月7日

広島県警佐伯署は6日、介護施設に入所していた認知症の女性(82)に性的暴行を加えたとして、準強姦(ごうかん)の疑いで、施設の経営者、谷浦秀俊容疑者(76)を逮捕した。「何をやったのか分かりません」と容疑を否認している。

逮捕容疑は11月3日午後8時40分ごろ、広島市佐伯区の介護施設「グループホームくつろぎ」の個室で、女性に暴行を加えた疑い。同署では、ほかにも複数回にわたり、性的暴行をしていた可能性があるとして調べている。

佐伯署によると、谷浦容疑者は度々女性の個室に侵入していた。不審に思った職員がドアを開けて個室を確認したところ、谷浦容疑者がベッドの上で女性に覆いかぶさっているところを発見したという。この職員が持っていたスマートフォンで動画を撮影し同署に相談、証拠として提出した。女性はアルツハイマー型認知症で、要介護2の認定を受け、2月から入所していた。事件発覚後、別の施設に移ったという。

同施設は、認知症患者を対象に、05年11月に開設。事件発生時は17人が入所していた。広島市では、要介護2以上の方がグループホームを利用できるとしている。市の関係者は「施設の方がこのようなことをしたとは、聞いたことがありません」と話した。

◆準強姦(ごうかん)罪 被害者が酩酊(めいてい)などで、正常な判断力を失ったり、心理的・物理的に抵抗できなかつたりする状態に乗じ、もしくは同状態にさせて姦淫(かんいん)すること。精神障害、知的障害のある女性に対しての行為も該当。暴行または脅迫を手段とする強姦罪と区別されるが、法定刑はいずれも3年以上の有期懲役。

年金滞納者9割が免除対象 厚労省、強制徴収に限界 朝日新聞 2016年12月7日

国民年金の保険料を滞納している人のうち9割以上が、所得が低いため申請すれば支払いの一部もしくは全額を免除される可能性が高いことが分かった。6日の参院厚生労働委員会で、日本維新の会の東徹氏の質問に塩崎恭久厚労相らが明らかにした。

厚労省は低迷する納付率を上げるため滞納者への強制徴収を進めているが、低所得者に対する強制徴収は「現実的に困難」(塩崎氏)という。

国民年金保険料を2年間以上滞納している人は2015年度末で約206万人に上る。厚労省は年間所得が350万円以上の滞納者を強制徴収の対象としているが、来年度以降は300万円以上に拡大する。

しかし、厚労省の実態調査では年間所得300万円未満が94%を占め、300万~350万円が2%、350万円以上は4%にとどまる。厚労省は「対象者のうち相当数が督促済み。強制徴収できる対象者はかなり限定的だ」としている。

国民年金の保険料は4人世帯の場合、所得が年162万円以下だと全額、282万円以下で半額、335万円以下で4分の1が免除される。天災や失業による特例もあるほか、生活保護や障害年金の受給者なども全額免除される。

6日の参院厚労委では、現役世代の賃金が下がった時に公的年金の支給額も下げる新しいルールを盛り込んだ年金制度改革法案の実質審議に入った。(井上充昌)

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

